

---

# 俺の 俺様の 学校LIFE

まりお

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

俺の 俺様の 学校LIFE

### 【Nコード】

N0838C

### 【作者名】

まりお

### 【あらすじ】

どこにでもありそうなよくありげなお話

「夏だな．．．。」

何故、突然こんなよくありがたなことを、物語の冒頭から唐突にいわなければならなかったのか、特に意味はない！！、別に思い出にひたっているわけでもなく、将来のことを考え、嘆息してるわけでもない、物語に一切関係なし！！

2007年の8月ごろ。8月といえば必ずひとつの単語が頭に浮かび上がってくるだろう、そう「夏」だ、この物語は、主に「夏」という、学園系にはぴったりの季節の中で語られる、まあ解説っぽいことなんてどうでもいいからとりあえず本編へ行こうじゃないか、別に不思議でもない、映画の世界や小説のような、心躍るファンタジーが待っているわけじゃない、ちょこつと矛盾してて、ちょこつとくだらないお話 心の準備はいいかい？それじゃあ、そろそろ舞台の幕をあげよう

「認めねえ．．．。」

窓から2列ほど向こうに座っている男子生徒が、そうつぶやき、陰険な視線を向ける

「．．．何を認めないんだ？」

視線の先には、窓際という絶好なポジションに居座り、涼しそうな顔をした男子生徒が一人

「だ〜か〜ら〜、なんで俺様をさしおいててめーだけこの季節には反則的に最高のポジションにいるんだよ！！！！」

「さあな、まあ、くじ引きで決めたのだから仕方あるまい、なんなら神にでもきいてみればどうだ？」

「だあああつ、俺は神様なんぞ信じてねえし、いや．．．さてよ．．．神様へるぷみいー!!」

あきらかにおかしな発音でそう叫び、席から立ち上がる

「．．．．．なんのつもりだ？」

窓際の男子生徒が、あきれたような口調でたずねる

「神頼みだよ!! 神頼み!! ほくらこうして祈ってれば、いつか神様が俺の願いを聞き届けて．．．．．」

「馬鹿か．．．．．」

間髪いれずにつっこむ

「なんだとーうっ!! もとはといえばお前が神様なんだのと．．．．．」

「バンツ!!! つーかお前ら授業中なのをわざとやってんだろ!! !さっさと席につけえええ!! !!!」

どうやら授業中だったらしく、教師が、たえられず参考書を教卓に叩きつけ叫ぶ

「だってようっ、こいつが．．．．．グハアツ! ?」

よく漫画でありそうな、チョーク投げという名の神業が見事に額にヒット

「まったく．．．．．先が思いやられる」

「なっ、なんで俺だけ．．．．．ギヤアツ?!」

それは、蝉達が死に急ぐように泣き喚く季節のお話

L I F E   -   0   -   (後書き)

えーと、久々の投稿です、下手ですが少しでも楽しめればうれしい  
かぎりです

ココハ・・・ドコ？

寒イヨ・・・寂シイヨ・・・

誰もいない渡り廊下に、真っ赤な服をきた少女一人、今にも消え入りそうな、か細い声、それなのに、鼓膜にこびりついて離れない、哀しい声。

「でね、真っ赤な服をきた女の子が、誰もいない渡り廊下を夜な夜な何か呟きながら歩いてるんだってさーっ！」

そんな話をしていたのは、いつものような、平和な放課後だった「まじでー？」

とりあえず俺は、そんな怪奇現象やら、七不思議とか学校の怪談とかおぼけの 太郎、などなどにはあまり関心がないので、曖昧な返事をかえしておく

「いやあ、私も他の人から聞いたんだけどねえ、みつかると・・・一緒にあっち側の世界に連れてかれるんだってさあ！！」

「へえ、そうなんだ」

「反応薄！！！！なんで？、もっと反応してよぉー！！キヤー、とか、怖いー！！とか」

「キヤー、こわーい」

言っでは見たものの、俺はいちよう男だぞ？、キヤーって・・・泣くぞこら」

「はは、悪い悪い、でもさ、都市伝説なんてものはなあ、人から人へ語り継がれているうちに、尾びれをつけて、都合のいいように変わっていくものだぞ？」

「信じてないでしょ」

「え？」

まずい

「いや、信じてるよ！」

「嘘だ、絶対疑ってる……」

やばいやばいやばい

「ねえ、こんな言葉しってる？」

やつやめろ、落ち着け

「百聞は一見にしかずってね!!」

見上げると、押しつぶされそうな威圧感、学校ってすごいなあ、なんてくだらないことを考えている場合じゃない、一刻もはやく、このふざけた状況から抜け出さなくては

「な、なあ、そろそろ帰らないか？」

「ダメ」

物凄く単純な答えを返しやがった、そういえば最近CMで、シンブルイズザベスト、なんていつてたっけな、でもな、人間いろいろ装飾語とか？いろいろ文法まじえて発言しないと、勘違いされちゃうんだぞ？、ほら、お菓子にはよくおもちゃがついてくるだろう？、

あ、これは違うか

「絶対確かめるまで、かえらないもんっ」

「えーと、俺はいい子だからそろそろ寝ないと……………」

「……………」

そんな可愛らしく、頬をふくらませられても……………

「あーわかったよ、いけばいいんだろ」

「それでよしっ！」

ああ、やっぱり男の子は、女の子の可愛げなしぐさに勝てないのかねえ、男はつらいよって題名の意味がわかった気がする

「で、なんでいいだしっぺのお前が、俺の後ろにいるのかな」

「えっ、いやほら、こっこっこっこわっ・・・・・・・・」

「・・・・・・・・」

「とつとにかく進め！！つべこべいうなあ！！」

まったく、怖いなら怖いといってくれ、人間素直にならないと、人生楽しくないぞ？

「でさ、どこから入るの？」

「校門」

即答かよ

「おいおい、どこぞの漫画じゃないんだぞ？第一不法侵入だろこれ」

「そんなこときにしてちゃ、人生楽しくないぞう？」

俺は楽しみとひきかえに、人生ぼうにふりたくないんだけど

「あれ、玄関鍵かかってるな、これは諦めてかえるしか・・・・・・・・」  
ガチャッ

なん・・・・・・・・だ？

「おお、あいてるじゃないかーっ、理由付けてかえろうつたって無駄だからね」

「いや、俺があけようとしたときは確かに鍵が・・・・・・・・」

「言い訳無用」

「お、おい、まてっ、あーもう！！」

仕方なく俺もあとを追いかける

「こっ、夜の学校って、すごいね」

確かに、昼間は生徒で溢れ返っていた、賑やかな教室、部活動が行われていた体育館、どれもこれも静かで、まるで異次元にきたよう



な感覚だ

「おい、もう帰ろう、全部まわつたろ」

「うう、私、嘘ついてないもん」

「わかった、信じるから、な？」

「本当？」

「ああ、大丈夫だっ………て  
いま……何か

「どうしたの？」

「あ、いや……」

「なんだ……」

「はっ、早く帰ろう……！」

思わず手をとる

「いたっ、どうしたの？」

早く、この場から逃げなければ

「走れ……！」

あの時、冗談でも、答えていればよかった

カッソ カッソ カッソ

「えっ何……？」

カッソ カッソ カッソ

逃げ！まだ、まだ間に合う……！！

カッソ カッソ カ……

「ココハ・・・ドコ？ 寒イヨ・・・寂シイヨ」

そんな、今にも消え入りそうな、か細い声を聞くと同時に、俺は意識を失った、意識が暗闇に落ちる瞬間、目の前に、真っ赤な影が落ちていた、そんな気がした

夢を見た

小さな女の子が、戦争でもあったのか、荒れ果てた地面を、ただ一人歩いている

目的もなく、帰る場所もなく、ただ、歩いている

「寒いよ、寂しいよ、みんな、どこいっちゃったの？」

真っ赤な惨劇を、まるで洗い流そうとするように、真っ白な雪が、あたりを包んだ

「お・・・ね・・・」

んー五月蠅い、まだ起きる時間じゃないぞ

「おき・・・よ・・・」

あーだからまだ・・・

「起きろこのやろう！ー！！」

「おおあああ？！」

「おおあーじゃないっ、さっさと起きろ！ー！！」

どうやら眠っていたようだ

「って、さっきの声は？」

「なにいつてるの？・・・気味悪いわね」

「えっ、聞こえなかつ、いや、なんでもない、それより帰ろう」

帰り道、校舎をふりかえる、そこには、赤い、哀しい亡霊が、帰る場所を探して、歩き回っているような、気がした

L I F E      - 1 -      (後書き)

なんか    よくあげな話すぎますね w

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0838c/>

---

俺の 俺様の 学校LIFE

2010年10月12日08時05分発行